

足立区議会
自由民主党

討論者



しぶや 竜一
委員

物価や光熱費の高騰が続くことによる区民、区内事業者への影響は計り知れず、不安を払拭し、暮らしを支えるという区政の使命を果たすためにも、スピード感を持って対策を講じていくことが急務である。

令和5年度予算は「明日のあだちへ。安心と活力を」と名付け、新型コロナウイルス感染症対策の継続とともに、切迫する大規模災害に備えた耐震改修・解体助成の拡充をはじめとする震災や火災等に強いまちづくりの推進や、区民を守るための防犯力の強化、未来ある子どもたちの学習環境の整備、SDGs未来都市の取り組み等、持続可能性を意識した予算となっており、一定の評価をするものである。

なお、我が党委員が指摘した災害対策、子育て支援、高齢者施策、物価高対策、婚

足立区議会
公明党

討論者



吉田 こうじ
委員

区は令和5年度予算を「明日のあだちへ。安心と活力を」と名付け、新型コロナウィルス感染症対策をはじめ、物価高騰等の厳しい社会情勢の中で、区民生活に寄り添い支え、安心安全を大勢の区民が実感できる予算を目指して編成を行った。

特に都が見直した首都直下地震等の被害想定を受け、大規模災害に備えた耐震改修・解体助成の拡充をはじめとする災害に強いまちづくりの推進に力点を置き、少子化対策では産前・産後期から高校生・大学生までの切れ目のない支援とともに、高齢者の健康や安全を守る施策やSDGs未来都市の取り組み等、持続可能性を目指した予算となった。区立小学校の給食費無償化に向けては、継続的な財源確保に向けた検討を進め、早期の実現を求める。

活支援、国民保護計画の啓発、町会・自治会館整備助成の見直し、鹿沼レクリエーションセンター跡地施設の早期開館のための支援、認知症対策、基金積立状況の区民周知、シエルトー建設の検討、糖尿病対策、スマホ依存症対策、綾瀬駅東口駅前交通広場の整備・西口環境整備、介護保険制度の抜本的見直し、⑩レシートde90周年事業加盟店申請手続きのあり方、学校開放利用団体登録、学校用務委託先の選定、中学校選択制度の見直し、多様な交通手段の導入に向けた取り組み、適正規模・適正配置のガイドラインの見直し、竹ノ塚駅周辺の再開発・まちづくり、学習支援ボランティア、スポーツ施設の充実、子どもの体力向上に向けた取り組み等、様々な提案及び要望事項については、本予算の執行と今後の区政運営に確実に反映するよう強く要望する。

最後に、共産党提出の修正案については、長期的で安定した区政運営を促したものはなく、到底賛成できるものではない。

なお、共産党提出の修正案は、中長期的な区政運営を考慮した案とは言えず、到底賛成できるものではない。

最後に本予算特別委員会で、我が党の委員から要望した、区立小学校の給食費無償化の早期実現、物価高騰対策のさらなる拡充、高齢者の就労支援や認知症対策の充実、出産育児一時金の区独自の上乘せ助成、妊婦健康診査における超音波検査の費用助成を3回へ拡充、防犯カメラ・ドアホン設置助成の拡充など防犯強化策の拡充、区立小・中学校の窓ガラスなど強化ガラス化への拡充、学校への不審者侵入時の危機管理の徹底、高校生の足立ミライゼミ等について、女性視点の防災対策の推進、ヤングケアラー支援の充実、動物との共生社会の実現、協同労働の推進、区の女性管理職比率30%の達成、男女共同参画の推進、バスの試験運行等、交通空白地域対策推進、竹ノ塚駅周辺地区のまちづくり等、様々な提案に真摯に対応するよう要望する。

特別
委員会の
討論(要旨)



令和5年予算特別委員会の映像は区議会ホームページでご覧いただけます。右の2次元バーコードからスマートフォン・タブレットでも視聴できます。



※令和5年10月に開会予定の決算特別委員会についても、YouTubeで生中継を行いますので、ぜひご覧ください。

※予算特別委員会委員の名簿及び委員会の審査結果は8面に掲載しています。

日本共産党
足立区議団

討論者



ぬかが 和子
委員

新年度の新規・拡充事業は、基金の有効活用で、区民施策を前進させた側面も多く、わが党が求めてきたものが予算化されたことは嬉しく思う。しかし、令和4年度末の基金残高見込みは約1千750億円、4年間で少なくとも124億円増であることを区も認めた。暮らし支援の財源は十分あるのに、対する予算はきわめて不十分であり、基金総額を増やす姿勢は認められない。会計年度任用職員や委託契約の労働報

酬を、物価高騰に見合う賃金にする姿勢がない。物価高騰対策として、区民への新たな支援策はおろか、昨年実施した施策すらもなく問題である。また、知の拠点、生涯学習施設と公園施設の充実を求める。待機児童対策の柱に公立保育園の大幅な削減を挙げ、株式会社の保育園等の儲け保証を優先する姿勢は重大である。介護保険の予算を余らせ一般施策に活用、生きがい奨励金の復活にも背を向け、高齢者にも子育てにも冷たい姿勢は改めるべきである。一方で、今後の投資的経費の増大が懸念されている。さらに重大なことは、旧統一

協会と行政の癒着を断ち切る意思がまったくない姿勢である。反社会的団体による行政への関わりを断ち切ることを強く求める。なお、わが党の予算修正案は、未曾有の物価高騰や困難に直面した区民を応援するための内容で、今後に生きるものである。国民健康保険特別会計は、21年連続値上げで、所得の低い方が値上げ割合が多くなる場合もあり賛成できない。介護保険特別会計は、23区で一番高い保険料で予算を余らせ、利用料の負担軽減も行わない姿勢は認められない。何よりも区民の命と暮らしを守る施策を最優先とすることを改めて強く求める。

足立区議会
立憲民主党

討論者



銀川 ゆい子
委員

令和5年度予算は「明日のあだちへ。安心と活力を」と名付け、新型コロナウイルス感染症や物価高騰等、いまだ厳しい社会情勢の中で、区民生活に寄り添い、支え、コロナ後を見据えて、誰もが明日に向かって力強く踏み出していけるような充実した内容の予算編成となっている。

入れた給付型奨学金、耐震補強工事、家具の転倒防止策等の首都直下型地震等への備えに向けた災害対策、年間を通じた区内地域経済の活性化策、高齢者事業の再構築、魅力あるまちへ向けたエリアデザイン等、バランスの取れた施策が打ち出された。特別区税は過去最高額を更新し、増加傾向が続いているが、歳入総額に占める割合は依然低いままである。コロナ禍から徐々に日常を取り戻し、足立区にも活気が戻りつつあるが、予想外の災害や社会情勢の変化等があった際、適切なタイミングで適切な支援を講じられるよう、無駄を省いた堅実な財政運営を求める。

また、我が党派から指摘した、女性の力を活かした政策チームづくり、理念・テーマのあるまちづくり、若年層への防災士育成、子ども防災士・ジュニアリーダーの育成、耐震化・不燃化助成金支給の効率化、道路の隅切りや細街路樹整備のスピードアップ、民間感覚も取り入れた意識改革、都立中川公園問題、JR常磐線緩行線問題、子どもに焦点を当てた新たなシティブロモーション、子どもの屋内大型遊び場の新設、路上喫煙・歩行喫煙ゼロ、客引き防止条例施行によるさらなる体感治安の向上、小・中学校教材費の無償化、DX化推進等の取り組みを強く要望する。

足立区議会
議会改革を全力
で推し進める会

討論者



土屋 のりこ
委員

物価と水光熱費の高騰で、区民生活は厳しさを増している。困窮者支援の現場でも新たな支援を希望する人が増え、早急な対応が必要にもかかわらず、令和5年度当初予算に支援策が盛り込まれなかったことは、自治体の在り方として至急改善を図るべきである。

子ども預かり・送迎支援事業では、必要な固定費への補助がされていない問題を指摘した。事業所は月曜日から金曜日までの週5日開かれており、サポーターの手配等事務所なしで実施できる事業ではない。必要な事業へは適正に補助をするよう改善を強く求める。

また、子育ての当事者としての思いから、妊産婦支援の拡充、自転車交通ルールの指導強化、子どもを迷惑扱いせず喜ぶ文化の醸成、クーポン事業を求める。大病院という周産期医療を持つ区の強みを生かし、子育て世代を呼び込むことで出生率向上は実現可能である。希望する人が妊娠・出産し、安心して子育てができるよう区の力を発揮するよう求める。特別会計は、区民からの国民健康保険料は人头税のような怒りの声を、後期高齢者医療についても自己負担2割がつかないという声を受け、反対の立場を取る。

区は、第5号議案修正案に示されたような事業を実施し、真に区民生活に寄り添うよう求める。